

1 普及活動 Educational Activities

1-1 資料の収集及び図書室の公開 Library

NFC図書室の公開図書数は平成17年3月末日現在で24,401冊を数えた(和書20,736冊/洋書3,665冊。複本を含むアイテム数。開架閲覧の図書や逐次刊行物を除く)。前年からの増加は2,024冊である。

上記とは別に、平成16年度には新たな試みとして国内で開催された様々な映画祭のカタログ類を対象に装備と登録作業を行い、現在は計545冊のカタログを登録しOPAC上での検索にも対応している。また、II-3で述べた資料の提供には、ゆまに書房による「映画旬報」の復刻(「資料・〈戦時下〉のメディア 第1期 統制下の映画雑誌」第5回配本)のための原本提供が含まれている。

閲覧業務では、これまで火曜日～金曜日であった開室日を改め、平成16年度より土曜日の開室を増やすとともに、開室時間を従来の10:30～18:00から12:30～18:30に改めた。なお、平成16年度の開室日数は228日間で、利用者は3,120人(1日平均14人)を数えた。

【年間利用者数】

- 開室日数 228日間
- 入場者総数 3,120人 一般78% 学生22%
- 1日平均 14人

The NFC library made accessible to the public 24,401 books in total (20,736 in Japanese and 3,665 in foreign languages) as of March 31, 2005. 2,024 books were added to the holding of the previous year.

In addition, NFC newly sorted out and entered the information of domestic festival catalogs and as a result, 545 catalogs are now searchable on OPAC (Online Public Access Catalog.) Also, the loan of non-film materials described under article II-3 includes those to Yumani shobō for its project of reprinting *Eiga junpō*.

NFC started to open the library on Saturday in addition to the weekdays, and changed the opening hours from 10:30 ~ 18:00 to 12:30 ~ 18:30. The library was open for 228 days during the fiscal year 2004, and received 3,120 patrons in total, that is, 14 patrons per day on average.

将来の映画観客となる小・中学生を主たる観客に想定して、こどもたちに映画の面白さ、とりわけ日本映画の素晴らしさを知ってもらい、同時に映像に対する理解力を高め、情操教育にも資するよう企画する上映会「こども映画館」を夏休みと春休みの時期に開催した。平成16年度は、上映企画「日本アニメーション映画史」や展示企画「造形作品でみる岡本忠成アニメーションの世界」を実施したこともあり、日本の短篇アニメーションの秀作を選んで番組を編成し、さらに研究員による解説を加えて展示企画との連動も図った。民間企業(映画現像所)の協力を得て、来館者へのプレゼント贈呈も行った。

また、フィルムセンター分館のある相模原市内の小・中学校生徒を対象にした学校上映は、2回実施した(参加者数：216人)。

NFC held special screening series “Kids★Cinema” for elementary and junior high school students during school holidays in spring and summer. This series is designed to educate the future generation of filmgoers by giving them the opportunities to enhance film literacy through aesthetic experiences of viewing high quality films. This year, in conjunction with the screening programs, NFC organized the special screenings for kids with Japanese animation shorts and the exhibition with the curator’s talks. In addition, with the help of the film laboratory, NFC gave out small gifts to the participants.

NFC also organized 2 screenings for the elementary and junior high school students in Sagami-hara city where the annex of NFC is located a drawing 216 viewers.

会 期
平成16年12月7日(火)
会 場
小ホール
講 師
常石史子(フィルムセンター研究員)
入場者
106人

「デジタル復元の現在」講演会

平成16年、フィルムセンターが角川映画株式会社と共同で『新・平家物語』（1955年、溝口健二監督）のデジタル復元を行ったことを踏まえ、社団法人日本映画テレビ技術協会との共催で講演会「デジタル復元の現在」を開催した。カラー長篇映画のデジタル復元はわが国初の試みで、実作業はオランダの復元専門ラボが担当しているが、いくつかの修復結果をフィルム映写で比較しつつ、フィルムセンター研究員がヨーロッパにおけるデジタル復元技術の現状を紹介した。後半では『瀧の白糸』（1933年、溝口健二監督）の例に即して、ようやく端緒について国内のこの分野での取り組みと、今後の展開について考察した。

The Status Quo of Digital Restoration

As a way to share the experience of digitally restoring the color feature film *Shin beike monogatari* (dir. Kenji Mizoguchi, 1955) for the first time in Japan in collaboration with the Kadokawa Pictures, NFC co-organized this lecture with Motion Picture & TV Engineering Society of Japan, Inc. The actual restorative process for this project was done at the foreign laboratory. NFC curator reported the current states of digital restoration in Europe by projecting variously restored prints. In the latter half of the lecture, the curator discussed the future development of the digital restoration based on the example of *Taki no Shiraito* (dir. Kenji Mizoguchi, 1933.).

【講座日程と受講状況】

コーディネーター：宮澤誠一氏

第1講
平成17年3月9日(水)
講師：長沼六男(撮影監督)
受講者数：62人

第2講
平成17年3月10日(木)
講師：長沼六男(撮影監督)
受講者数：59人

第3講
平成17年3月11日(金)
講師：安藤庄平(撮影監督)
受講者数：58人

第4講
平成17年3月12日(土)
講師：川上皓市(撮影監督)
受講者数：54人

1-4 映画製作専門家養成講座 Educational Program for Young Filmmakers

日本映画の優れた伝統を継承するとともに将来の映画人を育成することを目的として平成9年度より開講された映画製作専門家養成講座は、平成17年3月9日から12日にかけて、小ホールを会場にその第8回目を開催した。今回は前回に続き、日本大学芸術学部の教授として教鞭をとりつつ、現役の映画編集者としても活躍中の宮澤誠一氏をコーディネーターとして迎え、各日のゲスト講師として招かれた撮影監督とともに「撮影技術－伝承のかたち2」というテーマで講義を実施した。今回の講座で招かれた講師は、現在最前線で活躍している中でもベテランに属するカメラマンばかりであり、それぞれの担当作品を通じて、技術の伝承が具体的に語られた。

“Educational Program for Young Filmmakers” was launched in 1997 in order to help young filmmakers learn important skills and tradition of Japanese cinema. This year, the 8th program met for four days from March 9th till 12th at Cinema 2 of NFC. Coordinated by Seiichi Miyazawa who is both film editor and professor at Nihon University (College of Art), directors of photography spoke as guest lecturers. The subject of all the lectures was the same as the previous years: “techniques of motion picture photography: oral traditions.” The four veteran directors of photography discussed their art in concrete term after screenings of the films they worked on.



平成16年度は11大学より16名の実習生を受け入れ、フィルムセンターの歴史と運営、フィルム・アーカイヴの理念、各部門の仕事、相模原分館におけるフィルム保存の実際、フィルムの取り扱いなどを講義するとともに、実習として9.5mmフィルムのデータ作成、スチル写真の整理作業、上映企画の事前調査に当たさせた。例年、網羅的な映画の収集・保存・復元を行うフィルム・アーカイヴ活動の重要性を伝えるために講義に力点を置いてきたが、今回は具体的な実務体験も充実させることができ、さらに効果的な実習になった。

In 2004 NFC admitted 16 curatorial trainees from 11 universities. The training included lectures on topics such as the history and management of NFC, principles of film archives, roles of different division of NFC, film preservation practices at Sagamihara annex, and how to handle films. In addition to the lectures, the trainees engaged in practical training consisting of making data of 9.5mm films and sorting out still photographs. In order to inform the trainees of the importance of the comprehensive work of film archives that deal with collection, preservation, and restoration of films, the training curriculum was put together so as to let the trainees focus on lectures in the beginning and then proceed to the practical training based on the knowledge gained through the lectures. This year the work with 9.5mm films was added to enrich the program.

2 刊行物

2-1 NFCカレンダー等

NFCカレンダー

29.7×21cm
大ホール上映作品解説／上映スケジュール



□2004年4月号
キューバ映画への旅
4p



□2004年5-6月号
アジア映画―“豊穡と多様”
6p



□2004年7-8月号
日本アニメーション映画史
8p



□2004年9月号
映画女優 高峰秀子(1)
6p



□2004年10-11月号
映画女優 高峰秀子(2)
6p



□2004年12月-2005年2
月号
特集・逝ける映画人を偲んで
2002-2003
6p



□2005年1月特別号
シネマの冒険 闇と音楽 アメリカ
カ無声映画傑作選
4p



□2005年3月号
フィルムは記録する2005
6p

展示チラン



造形作品でみる岡本忠成
アニメーションの世界
2p



映画女優 高峰秀子展
2p



□2004年の夏休み
2p



□2005年の春休み
2p

こども映画館

29.7×21cm / 16p

制作：印象社



□第54号(2004年4-5月号)

特集1：キューバ映画への旅 特集2：アジア映画—「豊穡と多様」(1)

Guest Editorial

ユニークで自由な創造性 キューバ映画の魅力■山田和夫

企画の見所

ラテンアメリカ現代史の中のキューバ映画■太田昌国

キューバもうひとつの映画の都■樋口聡

CURATOR'S CHOICE/上映作品解説41 「ルシア」金谷重朗

《アジアフォーカス・福岡映画祭》と福岡市総合図書館のアジア映画■佐藤忠男
トピック

福岡市総合図書館、FIAFに加盟■H2O

DVD「日本アートアニメーション映画選集」に協力■H2O

ピリー・ワイルダーの“遺産”：UCLAキャンパスの新しい映画館計画■HO

「FIAFリアル・エマージェンシー・プロジェクト」の反響■HO

ヨハン・プライス講演会&ワークショップ報告■常石史子

連載：フィルム・アーカイヴの諸問題 第50回

スウェーデンの映画保存(下) —“シネマテーク”の事業、映画をめぐる“協定”を考える■岡島尚志

連載：フィルム・アーカイヴの諸問題 第51回

ジョージ・イーストマン・ハウス国際写真映画博物館・映画部のアーカイヴ事業■岡島尚志



□第55号(2004年6-7月号)

特集1：アジア映画—「豊穡と多様」(2) 特集2：日本アニメーション映画史(1)

企画の見所

グル・ダット、タヒミック、そしてアーキヴィスト魂■石坂健治

アジアの映画保存事情アップデート：シンガポール、ラオス、フィリピン、ウズベキスタン、台湾の場合■(翻訳・構成：溝口彰子)

写真でみる岡本アニメーションの造形作品

《短篇アニメの巨人》岡本忠成のアニメーション■おかだえみこ

人形作家・保坂純子が語る岡本忠成アニメーションの世界「十人の小さなインディアン」から「おこんじょうり」まで■(聞き手：おかだえみこ)

「日本アニメーション映画史」の人々■森卓也

トピック

「キューバ映画への旅」開幕と舞台挨拶■H2O

平成15年度映画製作専門家養成講座(第7回)の成果■HO



□第56号(2004年8-9月号)

特集：日本アニメーション映画史(2)

企画の見所

239枚の履歴書—日本アニメーション映画史■岡田秀則

大藤信郎 その業績と評価■津堅信之

CURATOR'S CHOICE/上映作品解説42 「三匹の小熊さん」■田中真澄

CURATOR'S CHOICE/上映作品解説43 「茶釜音頭」■安井喜雄

平成15年度フィルムセンター入場者数

トピック

清水宏作品ほか、フィルムセンター企画の展開■AT

福岡で開催されたシンポジウム「映画発掘!〜フィルム・アーカイヴの仕事」■HO

「FIAFナイトレート・ブック」がKKブック・アワーズを受賞■HO

平成16年度優秀映画鑑賞推進事業、スタート■AT

連載：フィルム・アーカイヴの諸問題 第52回

米国の公的フィルム・アーカイヴ(1)—国立公文書館・特殊メディア保存サービス部■岡島

尚志

連載：フィルム・アーカイヴの諸問題 第53回

FIAFハノイ会議報告 東南アジア太平洋地域の映画保存運動—その新たな展開■岡島尚志



□第57号(2004年10-11月号)

特集：映画女優 高峰秀子

企画の見所

高峰秀子・にんげん渡世■田中真澄

「十九の春」撮影風景について■入江良郎

「チョコレートと兵隊」の発見■とちぎあきら

9歳のプライベート・フィルムから梅原龍三郎の肖像画まで(グラフィア)

連載：ゲスト・トーク@NFC 第2回

「シリーズ・日本の撮影監督(1)」トークショーより(上) 高村倉太郎氏に聞く—先輩カメラマン・桑原昂と三浦光雄■(聞き手：岡田秀則)

連載：フィルム・アーカイヴの諸問題 第52回

米国の公的フィルム・アーカイヴ(2)—議会図書館・映画放送録音物部■岡島尚志



□第58号(2004年12月-2005年1月号)

特集：逝ける映画人を偲んで2002-2003

企画の見所

逝ってしまった懐かしい人たち■品田雄吉

プログラム・ピクチャーの栄光 蔵原惟繕小論■渡辺武信

深作欣二と笠原和夫■上野昂志

下戸の酒 佐伯清監督を偲ぶ■野上照代

映画作りの名コンビ 笠原良三氏を悼む■松林宗恵

わか師匠・松田定次■松村昌治

水木洋子美容室■白坂依志夫

連載：ゲスト・トーク@NFC 第3回

「シリーズ・日本の撮影監督(1)」トークショーより(下) 岡崎宏三氏に聞く—先輩カメラマン・青島順一郎■(聞き手：岡田秀則)

トピック

FIATが発表した視聴覚資料遺産の保存に関するパリ・アピール■HO

2004年度(第4回) FIAF賞がジェラルディン・チャップリンに授与■HO

シネマテーク・ド・トゥールーズの創立者、レイモン・ボルド氏逝去■H2O



□第59号(2005年2-3月号)

特集：フィルムは記録する2005

企画の見所

《不可視》の彼岸へ 1970年代日本のノンフィクション映画素描■岡田秀則

「空間」の政治学『パルチザン前史』をめぐって■北小路隆志

吉原順平氏インタビュー 移りゆく産業映画と岩波映画製作所の変容■(聞き手：岡田秀則)

映画「不安な質問」をつくる■松川八洲雄

立ち止まったまま前に進める■岩佐寿弥

監督樋口源一郎 追究する喜び■石井董久

沖縄で作った二つの民俗誌映画■北村皆雄

検証：早川雪洲の無声映画期のスターダム■宮尾大輔

トピック

「新・平家物語」のデジタル復元■常石史子



□平成16年度優秀映画鑑賞推進事業 鑑賞の手引

29.7×21cm / 6p

A-T各プログラム(20種、各4作品)の作品解説

会場一覧

プログラム作品リスト

編集：東京国立近代美術館フィルムセンター

制作：美術出版デザインセンター



□造形作品でみる 岡本忠成アニメーションの世界 出品リスト

22.5×10cm / 8p

制作：印象社



□映画女優 高峰秀子展 出品リスト

22.5×10cm / 8p

制作：印象社



□のぞいてみよう!アニメーションの不思議 造形作品でみる 岡本忠成アニメーションの世界 セルフガイド

22.5×10cm / 8p

制作：印象社

3 広報

3-1 広報 Public Relations

企画の広報活動としては、上映企画ごとの「NFCカレンダー」や展示企画及び「こども映画館」のチラシを作成し、それらの情報をフィルムセンターのウェブサイトでも公開した。平成16年度は、企画の内容に応じた情報掲載の依頼先（新聞・雑誌・ラジオ・テレビなど）の分析、外部メディアを通じた招待券の提供、掲載媒体のデータ蓄積など、企画の効果的な紹介をさらに増強した。また、フィルムセンターの事業紹介媒体としては、隔月刊の「NFCニューズレター」がある。企画関連の記事から映画保存の最新情報までの幅広いテーマを扱い、映画関係者、研究者などに広く配布している。

そのほか、修学旅行で東京を訪れる小・中学校の児童・生徒などの訪問者を積極的に受け入れ、研究員がフィルムセンターの役割と事業を解説するなど将来のフィルムセンターの観客への理解促進に努めた。

In order to publicize the events, NFC used various methods. As for publications, we published NFC Calendar for each screening series, and flyers for “Kids★Cinema.” All the information was also put on the web. In order to conduct publicity activities more effectively, we strategically contacted appropriate media (newspaper, magazines, radio and television) for each event by analyzing the target audiences of each. We also gave out free tickets through mass media as a means of promotion. We also published a bi-monthly publication, *NFC Newsletter*, which addressed a wide range of issues including essays related to the current events and the latest topics of film preservation to widely distribute to film specialists and scholars.

In order to publicize the role and function of NFC, our curators actively gave tours of the facility to the students of elementary school and junior high school who visited Tokyo on school trips.

3-2 美術館情報システムによる普及・広報 Diffusion and Public Relations through the Museum Informational System

ウェブサイトについては、平成13年度にフィルムセンターの事業を総合的に紹介する構成に大幅拡充したのちコンテンツの充実にも努め、平成15年度は、フィルムセンターの上映・展示企画や刊行物などの最新情報を電子メールで提供する「NFCメールマガジン」を創刊した。平成16年度はその購読者が1700名を超すこととなり、観覧の促進を通じて、従来のフィルムセンター・ファンをつなぎとめるとともに新しい観客層の掘り起こしを見込んでいる。

The NFC website was expanded in 2001 so as to comprehensively represent various aspects of NFC. In 2003, NFC launched the “NFC mail magazine” which provides the latest information of NFC’s screening series, exhibitions, and publications through email. The “NFC mail magazine” has been increasingly gaining readership and the number of subscribers exceeded 1,700 during the past year, supposedly catering to both old-time NFC patrons and new ones..